調べ学習における支援・指導業務に関する職務区分意識
沖縄県内の小中学校司書を対象とするアンケート調査から

山口真也・望月道浩

1.　研究の目的・方法

学習指導要領において、新しい学力観が提示されて以降、「生きる力」という理念に含まれる、「自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」[1] を育むための機能として、各教科や総合学習、学校行事等における「調べ学習」[2] の実施が注目を浴びるようになって久しい。調べ学習と学校図書館との関わりについては、児童生徒が教科書以外の資料・情報を幅広く入手するための「場」としての関わりはもちろんのこと、近年では、「情報リテラシーの指導」という観点から、学習 (授業) の展開を力強くサポートすることも、学校図書館、または学校図書館担当者の役割とする文献や実践報告も散見できるようになってきている [3] 。

調べ学習の展開において、学校図書館担当者が果たすべき職務については、全国学校図書館協議会 (以下、全国 SLA) が作成する「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」[4] や「学校図書館職員の職務内容 (案)」[5] に明記された内容をもとにある程度把握することができる。ただし、一口に「学校図書館担当者」と言っても、歴史的な経緯からその職種体系は非常に複雑なものとなっており、公立学校では、「学校司書」(多くは事務職員) と「司書教諭」(教育職員) という異なる職種が存在する上に、司書教諭の配置が義務化されていない小規模校では「図書館主任」や「係教諭」などと呼ばれる図書館教育担当教員がその実務に関わることもある。さらに言えば、私立学校では司書教諭の配置義務化以降、それまで学校司書として勤務していた担当者を司書教諭として任用し直すケースもあり、どのような職務をどのような職種の人物が担当するかという職務区分に対する考え方は必ずしも明確ではないように思われる [6]。学校図書館担当者は、自らの職務と調べ学習との関わりをどのように意識しているのだろうか。

筆者を含む研究グループでは、学校図書館の担当者が各教科や総合学習等で取り入れられている調べ学習の展開に具体的にどのように関わっているか、ということを様々な観点から明らかにするために、2008 年 12 月から 2009 年 3 月にかけて、沖縄県内の北部・中部・南部 (那覇) 地区における小中学校の学校司書 114 名を対象とするアンケート調査を実施することとした (質問項目の詳細は資料参照)[7]。その調査結果は、共同研究者である望月道浩氏との研究発表 [8]、または望月氏による論考において [9]、「調べ学習への関わりにみる学校図書館の類型化」という観点から、どのような属性を持つ学校図書館において調べ学習が推進されているかを明らかにするとともに、筆者による論考では [10]、「「調べ学習における学校図書館担当者の支援･指導状況」という観点から、調べ学習の展開に必要とされる支援・指導業務の実施状況をまとめている。これまでの分析結果を簡単にまとめると、①学校司書が正規職員として配置されて

いる学校ほど調べ学習が活発に行われる傾向が確認されたこと、②調べ学習の支援・指導業務の多くは学校司書が担当しており、司書教諭、図書館主任といった図書館担当教員の取り組みは低調であること、③学校司書による支援・指導業務は授業の準備段階での資料の手配やフロアワークに限定される傾向があり、授業の計画段階でのアドバイスや情報の取捨選択方法、整理方法といったリテラシー領域の指導・支援への関与はあまりみられないこと (授業担当者が主に取り組んでいること) などが明らかとなっている。ただし、上記のような「現状」と学校図書館担当者の「意識」は本来は別のものであり、現在の取り組みや雇用条件 (職種や身分) に関わらず、調べ学習を推進するための取り組みを自身の職務として認識している担当者が存在する可能性もあるだろう。

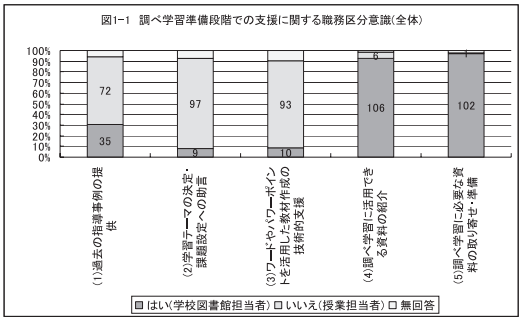
沖縄県において学校図書館活動の中心となっている学校司書は、調べ学習のサポートを学校図書館担当者の職務として意識しているのだろうか。意識しているとすればその範囲は、授業準備段階での支援、授業時間中の指導・支援、授業終了後の支援と 3 つの段階にどの程度及んでいるのだろうか。さらに、学校図書館担当者がなすべき職務について、学校司書という職種はどのように関わるべきであると考えているのだろうか。本稿では、アンケート調査の結果をもとに、調べ学習の展開において必要とされる支援・指導項目に対する学校司書の職務区分意識を明らかにしてみたい。

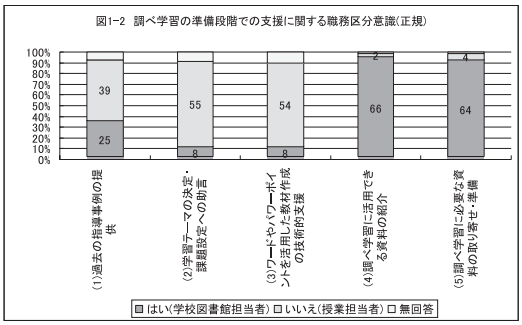
2.　調査結果の分析

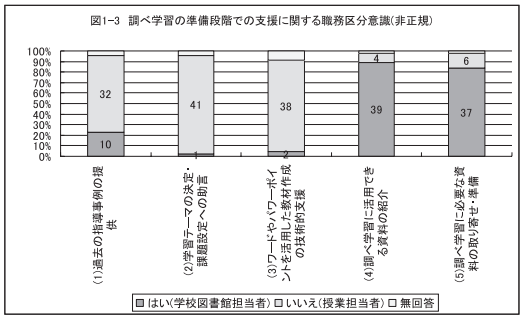
2.1.　調べ学習の準備段階での支援意識

上述のように、調べ学習のサポートに関する職務は多岐にわたるものの、実施状況を分析した筆者による論考では、それらの職務の一部は、学校図書館担当者によるサポートはほとんどなされておらず、授業担当者自身が取り組んでいるという回答が確認されている。全国 SLA が示している学校図書館担当者の職務内容に関する提案では、調べ学習のサポートもまた学校図書館の機能であり、学校図書館担当者の職務である、という考えが読み取れるのだが、現場の学校司書はそうした考えに対してどのような意識を持っているのだろうか。

アンケート調査では、Q12 として、調べ学習の展開における「授業準備段階」での支援として 5 つの項目を挙げ、それぞれの職務について、ひとまず (学校司書、司書教諭、図書館主任等の) 職種は問わずに「学校図書館担当者の仕事と思うか？」という質問し、「①はい (学校図書館担当者の仕事である)」と「②







いいえ (授業担当者の仕事である)」という 2 つの選択肢に〇を付けてもらうこととした。調査結果をまとめたものが、図 1 に示した 3 つのグラフであるが、全体でみても (図 1-1)、雇用身分別にみても (図 1-2、1-3)、「(1) 過去の指導事例の提供」、「(2) 学習テーマの決定・課題設定への助言」、「(3) ワードやパワーポイントを活用した教材作成の技術的支援」の 3 項目については、「いいえ」、つまり学校図書館担当者の手を借りることなく、授業担当者が単独で行うべき職務であるという回答が多数を占めていることが分かる。これに対して、「(4) 調べ学習に活用できる資料の紹介」と「(5) 調べ学習に必要な資料の取り寄せ・準備」の 2 項目については、学校図書館担当者自身の職務であるとする回答が多数を占めており、全体でみると、(4) は 93.0%、(5) は 89.5% にものぼっていることが明らかとなる。授業準備段階での調べ学習の支援状況 (現状) について分析した筆者の論考においては、(1) ～ (3) の支援項目については、「誰も担当していない」という回答が多かったのだが、現在担当していないだけでなく、学校図書館担当者の職務として強く意識されているわけではないということが明らかとなるだろう。

本アンケート調査では、先の設問に挙げた調べ学習の準備段階での 5 項目について、学校図書館担当者の職務であると考えている回答者を対象として、学校図書館担当者を大きく、「①主に学校司書」と「②主に司書教諭 (図書館主任等も含む図書館担当教員)」に分け、さらにクラス担任の免除や授業数軽減等が保障されていない沖縄県の公立小中学校における司書教諭 (図書館主任) の校務分掌状況を考慮し、「③本来は司書教諭 (図書館主任) の仕事だと思うが、担当できる状況ではないので、自らが代わりに担当してもよい」という選択肢を準備して、その職務区分意識をさらに詳しく確認しようと試みている [11]。調査結果をまとめたものが、次に示した図 1-4、1-5、1-6 である。

まず、「(4) 調べ学習に活用できる資料の紹介」と「(5) 調べ学習に必要な資料の取り寄せ・準備」の 2 項目に注目すると、「学校司書」が担当すべきとする意見が多数を占めており (全体では (4) が 66.0%、(5) が 81.4%)、雇用身分別に集計しても同じような結果となっている。これに対して、「(2) 学習テーマの決定・課題設定への助言」と「(3) ワードやパワーポイントを活用した教材作成の技術的支援」については、主として学校司書が担当するという回答は非常に少ない。非正規職員の回答がそれぞれ 1、2 名と少ないため分析が難しい部分もあるが、(2) や (3) については、学校図書館担当者の職務ではあるが、学校司書の職務ではなく、本来は司書教諭が果たすべき職務であるという意識が強いと考えて良いだろう。

一方、「(1) 過去の指導事例の提供」については、他の項目と比べると回答にばらつきがあり、全体では「主に学校司書」が 45.7%、「主に司書教諭」が 14.3%、「本来は司書教諭だが、学校司書が代わりに担当」が 34.3%、雇用身

分別にみると、正規職員のグループでは、「主に司書教諭」と「本来は司書教諭だが、学校司書が代わりに担当」という回答の比率が全体よりも高くなっている (45.7%、34.3%) のに対して、非正規職員のグループにおいては、「主に司書教諭」という回答が 1 人も確認できないという結果となっている。資料の手配に関わる (4) や (5) を伝統的な図書館司書の役割と位置付けるならば、(1) は図書館機能を活用した調べ学習の展開において新たに期待される役割であると考えて良いだろう。やや意外な結果ではあるが、調べ学習の準備段階での支援項目については、正規職員よりも非正規職員のグループの方が自身の職務の範囲をより広く、そして新しく認識しているということになるだろうか。

図1-4　調べ学習準備段階での支援に関する主たる担当者の職務区分意識(全体)

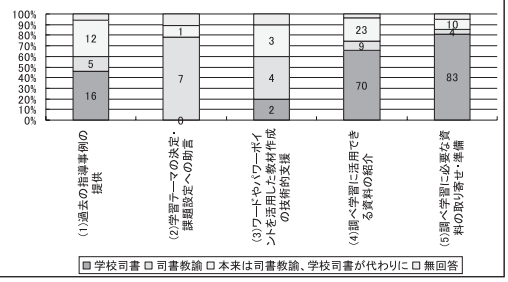


図1-5　調べ学習準備段階での支援に関する主たる担当者の職務区分意識(正規)

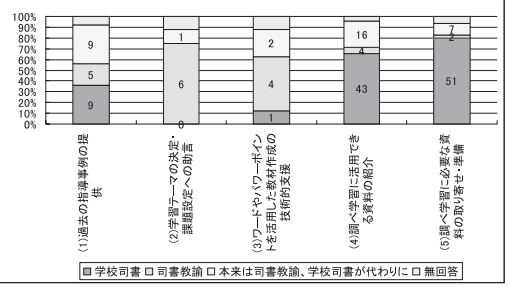
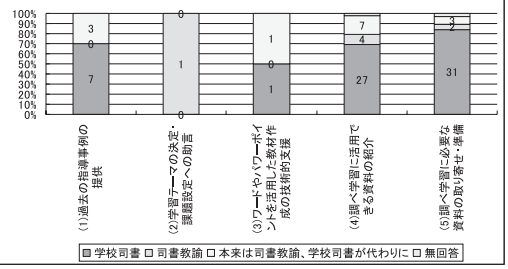


図1-6　調べ学習準備段階での支援に関する主たる担当者の職務区分意識(非正規)



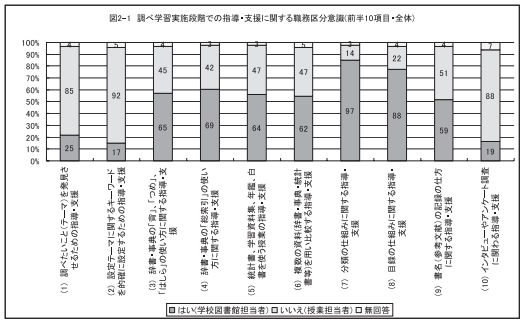
2.2.　調べ学習の実施段階での指導・支援意識

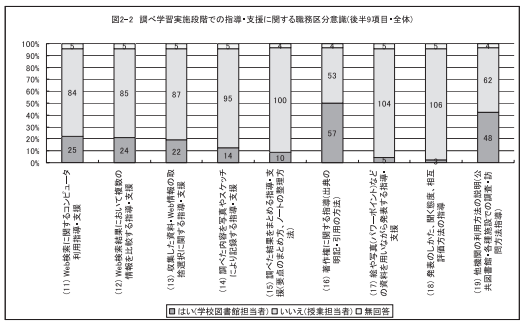
次に、「調べ学習の実施段階」における指導・支援項目に対する学校司書の職務区分意識を確認してみよう。

Q13 では、図書館機能を活用した調べ学習の実施中、つまり授業時間中の指導・支援項目として、19 の項目を挙げ、2.1. と同じく、それらを誰が担当するべきか、ということを、「①はい (学校図書館担当者の仕事である)」と「②いいえ (授業担当者の仕事である)」という 2 つの回答を準備して質問している。その結果を示したものが次の図 2-1 と 2-2 のグラフである。質問項目が多いため、以下のグラフでは前半 10 項目と後半 9 項目を分けて示している。

まず、全体の結果をみると、学校図書館担当者の職務であるという意識が高い項目は、「(7) 分類の仕組みに関する指導・支援」(85.1%) と「(8) 目録の仕組みに関する指導・支援」(77.2%) の 2 項目となっている。これに対して、「(15) 調べた結果をまとめる指導・支援」(8.8%)、「(17) 絵や写真 (パワーポイント) などの資料を用いながら発表する指導・支援」(4.4%)、「(18) 発表のしかた、聞く態度、相互評価方法の指導」(2.6%) の 3 項目についてはいずれも 10% 未満の値となっており、学校図書館担当者の職務であるという認識は乏しいことが明らかとなる。

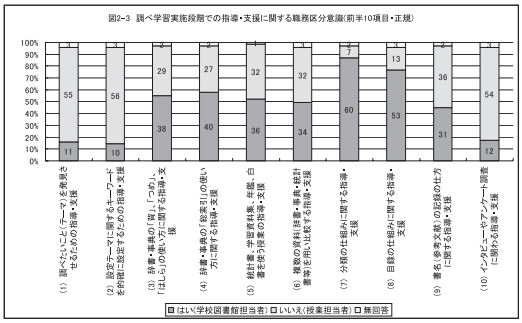
なお、学校図書館担当者の職務であるという認識が約 5 割を越えた項目と、約 2 割以下であった項目とを比べてみると、前者が「(4)

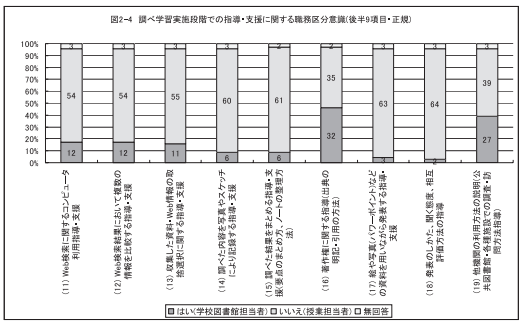


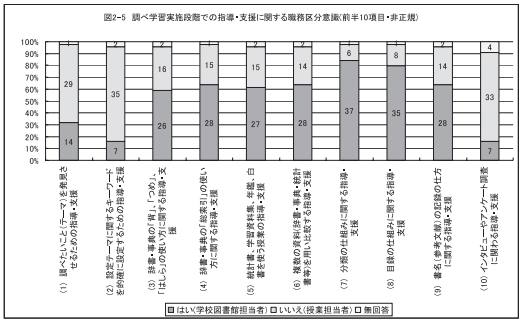


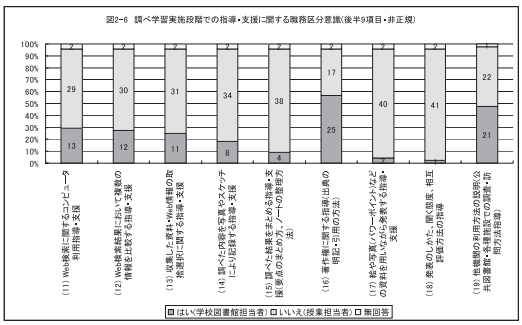
辞書・事典の「総索引」の使い方に関する指導･支援」(60.5％) や「(5) 統計書､学習資料集、年鑑、白書を使う授業の指導･支援」(56.1％) などの調べ学習で多く用いる参考図書の使い方に関する指導・支援を中心としているのに対して、後者は「(1) 調べたいこと (テーマ) を発見させるための指導・支援」(21.9％) や「(12)Web 検索結果において複数の情報を比較する指導・支援」(21.9％) など、授業展開に直接的に関わるような指導・支援項目、具体的に言えば、リテラシー領域に関する指導項目が多くなっていることが分かるだろう。

以上の結果を雇用身分別に集計したものが、図 2-3、2-4(正規) と、図 2-5、2-6(非正規) である。グラフの形状そのものは全体の結果と大きな差異はないように見えるのだが、回答の比率を細かく調べてみると、正規職員よりも非正規職員のグループの方が、学校図書館担当者の職務であるとする肯定的な回答の比率が、多くの項目において (若干であるが)









上回っているという結果を読み取ることもできる。次の図 2-7 は、この結果をより分かりやすく示すために、Q13 にて質問した 19 項目について、「①はい (学校図書館担当者の仕事である)」と「②いいえ (授業担当者の

仕事である)」の値を全て合計し、雇用身分別に集計したものである。グラフから分かるように、正規職員では「①はい」が 34.5% であるのに対して、非正規職員では 41.7% となっている。「②いいえ」という回答が過半数となってはいるものの、相対的に見れば、非正規職員のグループの方が、学校図書館担当者の職務をより広く捉えていることが明らかとなるだろう。

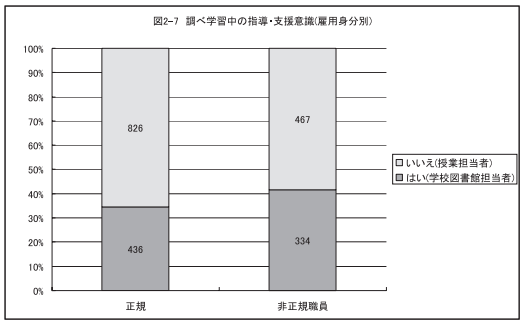
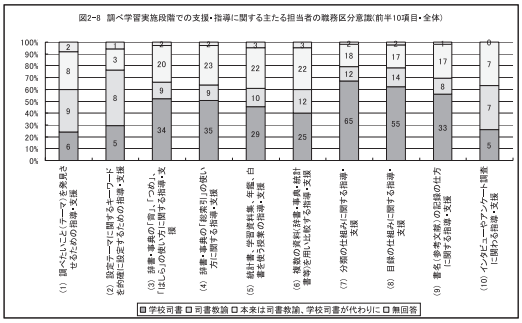
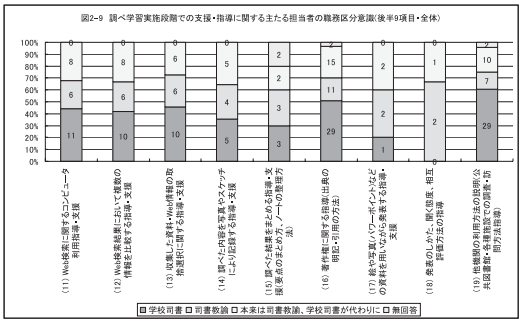
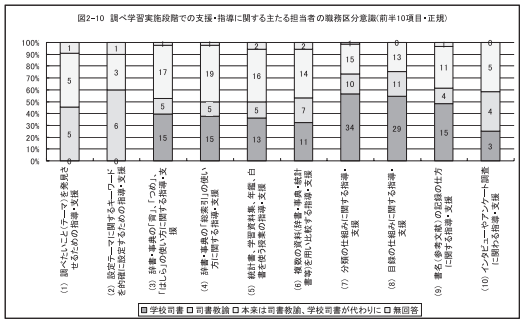


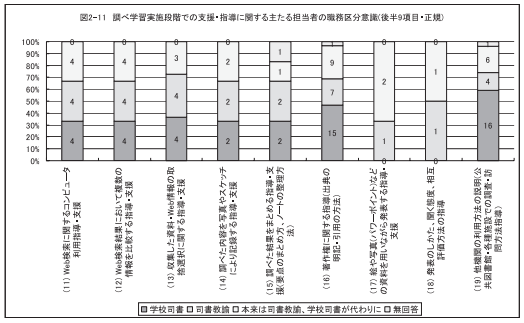
図 2-8、2-9 は、調べ学習の実施段階における指導・支援項目について、学校図書館担当者の職務であると回答した人物に対して、その職務区分意識をさらに細かく確認したものである。グラフから分かるように、「主に学校司書」が担当するべきという回答の比率が高い項目は、「(7) 分類の仕組みに関する指導・支援」(67.0%)、「(8) 目録の仕組みに関する指導・支援」(62.5%)、「(9) 書名 (参考文献) の記録の仕方に関する指導・支援」(55.9%)、「(19) 他機関の利用方法の説明」(60.4%) であり、「主に司書教諭」が担当するべきという回答は、「(18) 発表のしかた、聞く態度、相互評価方法の指導」(66.7%) のみが 5 割を越えたものの、他の項目については「主に学校司書」が担当するか、または、「本来は司書教諭の仕事」ではあるが、忙しい司書教諭の代わりに学校司書が担当しても良いと考えられている。調べ学習の指導・支援業務を学校図書館担当者の職務と受け止めている回答者に関しては、司書教諭と学校司書の職務の境界線は、実務上はそれほど絶対的なものとは捉えられていないと考えてよいだろう。

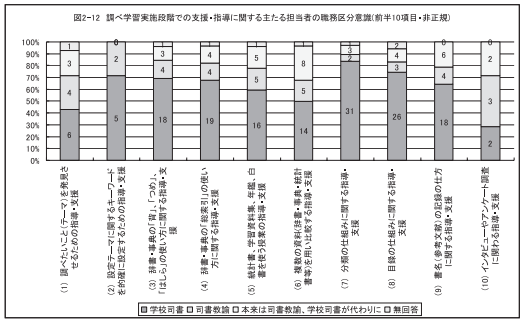


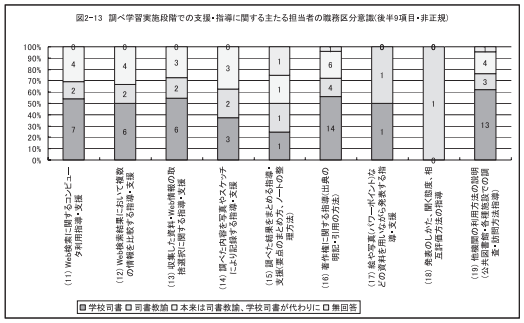


この調査結果をさらに、雇用身分別に集計したものが図 2-10 と 2-11(正規)、図 2-12 と 2-13(非正規) である。2.1. での分析結果と同じく、全体的にみて、正規職員よりも非正規職員のグループの方が「主に学校司書」が担当すると回答する比率が高く、例えば、「(1) 調べたいこと (テーマ) を発見させるための指導・支援」や「(2) 設定テーマに関するキーワードを的確に設定するための指導・支援」についてみると、正規職員のグループではいずれも「主に学校司書」が担当すべきという回答は 1 名からも寄せられていないが、非正規職員のグループでは、(1) が 5 人 (42.9%)、(2) が 6 人 (71.4%) という高い値を示していることが分かる。







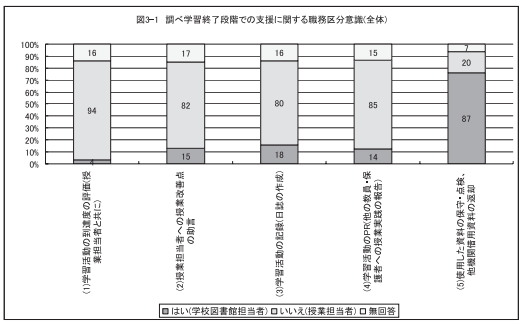


調べ学習の実施段階における指導・支援項目についても、正規職員よりも非正規職員のグループの方が自身の職務をより広く捉えていることが明らかとなるだろう。

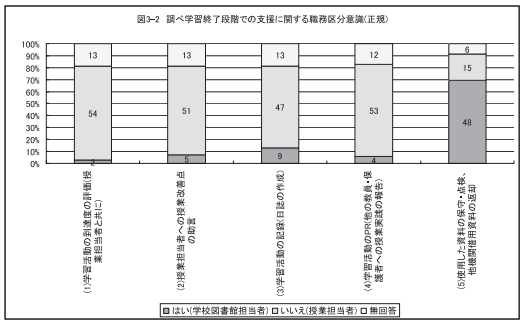
2.3. 調べ学習の終了段階での支援意識

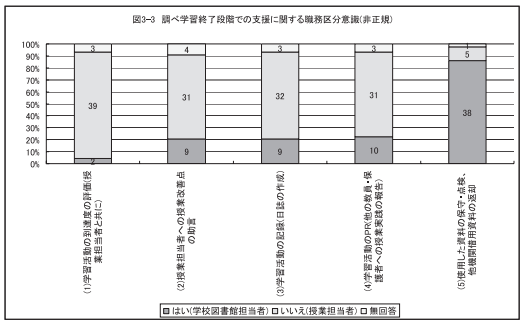
本アンケート調査 (Q15) では、調べ学習の実施を終えた後の支援項目として 5 つの項目を挙げ、Q12、13 と同じ方法で、それらの職務が学校図書館担当者の仕事であると思うかどうかを確認している。図 3-1、3-2、3-3 はその結果を全体と雇用身分別に分けて集計したものである。

まず全体の結果をみると、5 つの項目の内、学校図書館担当者の職務であるという回答が多数を占めたものは、「(5) 使用した資料の保守・点検、他機関借用資料の返却」(76.3％) のみであり、残る 4 つの項目 (「(1) 学習活動の到達度の評価 (授業担当者と共に)」、「(2) 授業担当者への授業改善点の助言」、「(3) 学習活動の記録 (日誌の作成)」、「(4) 学習活動の PR(他の教員・保護者への授業実践の報告)」) はいずれも学校図書館担当者ではなく、授業担当者の仕事であるという回答が 7 割を越えるという結果となった。調べ学習の準備段階と実施段階において、参考図書などの資料の提供・利用に関わる指導・支援項目が多く選択されていたことを考えれば、ここでも学校図書館担当者の多くは、資料の手配に関する職務を中心として、調べ学習の展開をバックアップしたいという意識を持っていることが明らかとなる。

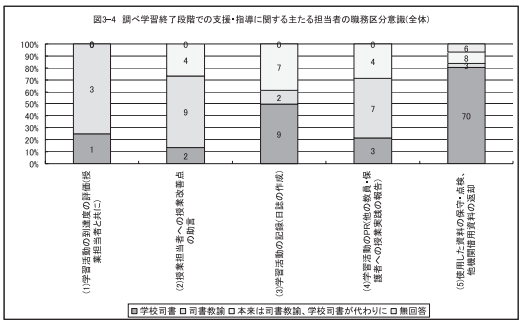


次に、この結果を雇用身分別に集計してみると、いずれの項目においても、非正規職員のグループの方が「学校図書館担当者」を選択する比率が上回っていることが明らかとなる。特に大きな差異がみられた項目は、「(4) 学習活動の PR(他の教員・保護者への授業実践の報告)」であり、「学校図書館担当者」を選択した比率は、正規職員のグループではわずか 5.8％に止まっているのに対して、非正規職員のグループでは 22.7％にも上っており、約 4 倍の差となっていることが分かる。





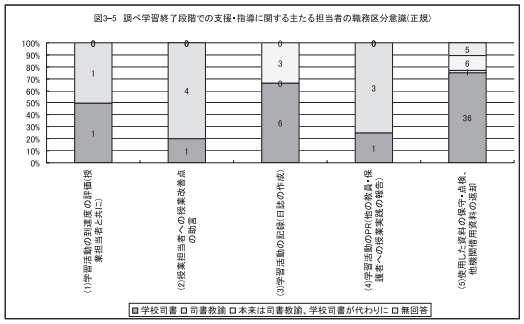
Q15 では、調べ学習終了段階での支援項目についても、学校図書館担当者の職務であると回答した人物に対して、学校図書館担当者の内、どのような職種がそれらを主に担当するべきかを確認している。その結果は、図 3-4、3-5、3-6 に示した通りであるが、全体でみると、「主に学校司書」が担当するべきであるという意識が高いものは「(5) 使用した資料の保守・点検、他機関借用資料の返却」であり (80.5％)、「主に司書教諭」が担当するべきであるという意識が高いものは「(1) 学習活動の到達度の評価 (授業担当者と共に)」(75.0％) となっている。「(3) 学習活動の記録 (日誌の作成)」については、「本来は司書教諭」が行うべきという認識も多くみられるものの (38.9％)、「主に司書教諭」が行わなければならないとする回答の比率はそれほど大きくはない (11.1％) ことからは、司書教諭が置かれている現状を考慮して、学校司書がその職務を担当することについて前向きな姿勢、または不可能ではないという認識もうかがえる結果となっている。

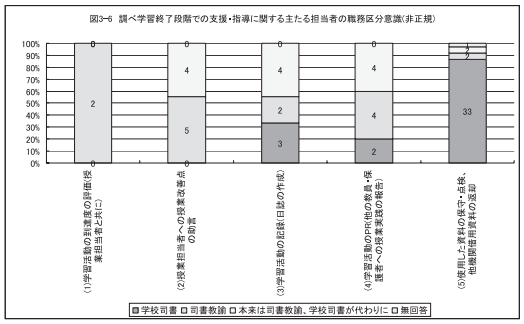


では、この結果を雇用身分別にみるとどのようになるのだろうか。調べ学習の準備段階と実施段階では相対的に見て、正規職員よりも非正規職員のグループの方が自身の職務を広く捉える傾向が確認されていたが、調べ学習後の支援項目についてはやや異なり、「(1) 学習活動の到達度の評価 (授業担当者と共に)」、「(2) 授業担当者への授業改善点の助言」、「(3) 学習活動の記録 (日誌の作成)」の 3 項目については、正規職員よりも非正規職員のグループにおいて「主に学校司書」が担当しなければならないという回答の比率が小さくなっていることに気づかされる。

例えば、「(1) 学習活動の到達度の評価 (授

業担当者と共に)」については、正規職員のグループでは、「主に学校司書」が担当するという回答が 50％に達しているのに対して、非正規職員のグループでは、学校司書が担当して良いという回答は１名からも寄せられておらず、回答者全員が「主に司書教諭」が担当するべきであると考えている。ここに挙げた指導・支援項目は他の項目と比べて、学習者の評価や担当教員へのアドバイスなど、授業担当教員と対等か、またはそれ以上の関係性が求められる項目とも考えられる。また、そのようなアドバイスなどの授業担当教員とのやり取りを行うにしても、授業終了直後に行うことは困難であり、必然的に放課後勤務時間外における時間確保が必要となることも考えられる [12]。両グループとも母数が少ないため正確な分析は難しいかもしれないが、こうした職務を自身の仕事と認識するには、やはり安定した雇用条件の整備が必要ということになるだろうか。





3.　今後の課題

本稿では、沖縄県内の小中学校に勤務する学校司書を対象として、調べ学習における指導・支援に関する職務区分意識を分析してきた。

繰り返せば、調べ学習を豊かに展開する上で求められる職務について、沖縄県の小中学校の学校司書が抱く職務区分意識は、資料の準備やフロアでの利用に関する指導・支援を中心としており、調べ学習の計画段階での助言や､実施段階でのリテラシー領域での指導、さらに実施後の授業評価や図書館活用状況の PR などの分野では自らの職務として積極的に引き受けようという意識はそれほど強くないという結果となった。ただし、これらの結果を現在の雇用身分別に分けてみると、調べ学習の準備、実施段階においては、正規職員よりも非正規職員のグループの方が自身の職務をより広く、かつ授業展開との関わりにおいて積極的、直接的に捉えていることも分かる結果が示されている。今回のアンケート調査からは、その理由まで分析することは難しいが、いくつか想像できることを挙げてみると、第一に、正規職員よりも非正規職員の方が勤務経験が短く [13]、(おそらく) 年齢層が低いだけに、新しい学校図書館の実践に触れる機会が比較的多く、学校図書館担当者の職務を広く認識しやすい学習環境にあったと考えてよいのではないだろうか。あるいは、正規職員に対して非正規職員の方が、雇い止めなどによって雇用身分が不安定であるが故に、学校司書の専門性を外部に向けて (学校内で広く) 理解してもらう切迫性が高く、そのための１つの方法として、授業との関わりをより積極的に捉えようとする心性が働いているのかもしれない。

今回のアンケート調査から見えてきた現状は、近年の他府県での実践報告などをふまえて考えれば、やや物足りない結果であるようにも筆者は考えている。例えば、授業準備段階の「(1) 過去の指導事例の提供」や「(2) 学習テーマの決定・課題設定への助言」といった項目については、アンケート調査では、授業担当者自身の職務であり、学校図書館担当者の職務ではないとする意見が多く寄せられたのだが、授業に調べ学習を取り入れることは、新しく求められるようになったことであるため、教員側の授業実践の経験、蓄積が乏しく、それだけに、過去の指導事例を参考にすることは授業計画において非常に重要であると考えられる。過去の指導事例は授業実践を報告した専門誌だけでなく、インターネット上のサイトや地域ごとの研修会記録等の灰色文献にも多数掲載されていることを考えれば、「(1) 過去の指導事例の提供」という形で、教員の求めに応じてそれらを収集、整理し、提供することは、学校図書館担当者の、もっと言えば、資料の専門家である学校司書としての腕の見せ所ではないだろうか。また、「(2) 学習テーマの決定・課題設定への助言」についても、授業準備段階で授業担当教員と連携し、調べ学習においてどのような学習課題を設定すれば自校の図書館を活用した調べ学習が可能となるかをチェックするという意味で、学校図書館担当者にとって重要な任務であると考えられる。授業終了後の「(4) 学習活動の PR(他の教員・保護者への授業実践の報告)」についても、今回のアンケート調査では、学校図書館担当者の職務ではないという回答が多数 (74.6％) を占めるという結果となっているが、教員向けの図書館だよりなどを通じて学校内で図書館を活用した授業展開を PR し、その取り組みの輪を広げていく手法はすでに学校司書の実践として高く評価されている事例の 1 つとなっている [14]。これまで「学校図書館先進地域」と呼ばれてきた沖縄県の学校図書館において、調査時点での取り組みの有無とは別に、職務区分の意識を確認した設問においてもなお、授業の展開に直接的、積極的には関わるべきであるという意識が (特に正規職員のグループにおいて) それほど強く表されなかったことは、筆者にとっては予想外の結果であり、他府県と比べて恵まれた状況にある人的配置上の利点を十分に生かし切れていないようにも感じられたのである。

このような実態の背景には、平成 10 年版の学習指導要領以降、「指導と評価の一体化」が求められてきた中で、各担任あるいは教科担当教員が、児童生徒への指導における計画、実践、評価という一連の流れを踏まえつつ、指導の成果を再評価しながら繰り返すことが求められていることも一因ではないだろうか。すなわち、各担任あるいは教科担当教員が、「指導と評価の一体化」における教員自身の指導成果の把握に固執するあまり、仮に授業で調べ学習を行うに当たっても、無意図的に学年セクト・教科セクト主義に陥ってしまい学校図書館担当者が計画段階から入り難いような組織性や文化性が築かれてしまっているようにも察せられる [15]。調べ学習などの授業において、学校図書館担当者が、授業の計画段階から参加できなければ、授業後に省察する段階においても参加し難くなる意識が芽生えるのは「指導と評価の一体化」を考えれば必然的な結果であろう。本来であれば、学校図書館担当者との協働による計画、実践、評価により充実が図られるはずの学習活動な

のではあろうが、学校の官僚主義的な組織性や閉鎖主義的な文化性として指摘される負の要素を孕んでしまったがために、「同僚性」として語られるような協働の芽が開いてくるのは、学校改革が進展するこれからなのかもしれない[16]。いずれにせよ、教育に携わる専門家として学校図書館担当者も一体となった学び合いのための「同僚性」を構築していくことが必要であろう。

今回のアンケートは、質問の設定が複雑であり、かつアンケート用紙の設問スペースが限られていたことから、正確な実態把握につながらなかった可能性も否定できない。例えば、設問が進むにつれて無回答の比率が増えている点にも、本アンケートの内容的な難しさが表れているように思われる。また、指導・支援項目として挙げた職務の全てを学校図書館担当者、学校司書が担当すべきであるとも言い切れないだろう。学校図書館担当者、特に学校司書は「専任・専門職員」として、調べ学習の展開にどのように関わるべきなのか。このことは、現在の沖縄県内の多くの地区が抱える学校司書の配置問題 (安定した雇用を守ること、司書の雇用条件の改善に努めること) にも関わる重要なテーマでもある。全県的に議論する必要があることを提案して、ひとまずこれまでのアンケート調査結果報告のまとめとしたい。

謝辞・付記

今回のアンケート調査の実施におきましては、大宜味村立大宜味小学校の當山政子様、比屋根小学校の喜納さやか様、宜野湾市立大謝名小学校の松堂さえ子様、那覇市立首里中学校の野原加代様をはじめとして多くの皆様に多大なるご助言、ご支援を頂きました。また、北部地区、中部地区、那覇地区の学校司書の皆様には、アンケートの回答に快くご協力頂きました。誌上ではありますが、この場を借りて深くお礼申し上げます。

なお、今回のアンケート調査の実施・集計にかかる諸費用につきましては、「2008(平成 20) 年度　沖縄国際大学特別研究費」を活用させて頂きましたこともここに付記致します。(2010 年 8 月 31 日)

脚　注

[1]「小学校学習指導要領解説　総則編」(2010 年 6 月) の定義より。

[2] 本研究では「調べ学習」という用語を次のように定義する。「「自ら学び、考える」主体的、自発的な学習。学び方を学ぶ学習として、子どもが自分自身の力で課題を設定し、その課題解決へ向けての学習計画を立てて、調査・研究をし、解決を図っていく学習活動の形態」であり、「教科書中心の授業、画一的な授業から、子どもたちそれぞれが個性を生かして、主体的・創造的に課題に取り組むことにより、学習活動を意欲的に進め、学ぶ力、生きる力を身につけていくことをねらったもの」。(図書館用語辞典編集委員会編『最新図書館用語辞典』柏書房 , 2004, p.251)

[3] 例えば、2010 年 8 月 20 日～ 22 日にかけて開催された「教育研究集会全国集会 2010 in 和歌山」の「第 23 分科会 文化創造と教育」では、学校図書館関係のレポート 5 本の内、「“伊那谷” だに」(北原幸氏) と「2 回目のオリエンテーション　図書館利用を定着させるために」(石黒順子氏) の 2 本が学校図書館担当者 (学校司書) による高校での調べ学習の指導を報告した内容であった。また、2010 年 8 月 3 日～ 5 日にかけて開催された学校図書館問題研究会主催の大会でも、2 本の実践報告の内、1 本

が「校長先生、図書館も純真の教育に参加します！」(遊佐幸枝) であり、私立中学校での司書教諭による情報リテラシー教育への積極的な関わりを紹介したものであった。

[4] 全国学校図書館協議会編『情報を学習につなぐ　情報・メディアを活用する学び方の指導体系表解説』全国学校図書館協議会 , 2008, pp.46-47

[5] 全国学校図書館協議会編『これからの学校図書館と学校司書の役割　配置促進と法制化に向けて』全国学校図書館協議会 , 2005, p.34

[6] 全国 SLA が作成する「学校図書館職員の職務内容 (案)」では、調べ学習の支援・指導業務については「主として司書教諭が行う職務」の 1 つとして、「情報・メディアを活用する学び方の指導の展開」「学習指導への支援」が区分けされているが、その解説書では「学校司書と司書教諭の職務は機械的に分けられるものではなく、「主として司書教諭が行う職務」と「主として学校司書が行う職種」とに分けるにとどめ、あとは「学校の実情に合わせて」判断をゆだねる形になりました」と説明されている。(全国学校図書館協議会編『これからの学校図書館と学校司書の役割　配置促進と法制化に向けて』全国学校図書館協議会 , 2005, p.31)

[7] 北部地区、中部地区、南部地区 (那覇地区) の 3 箇所に分け、それぞれの地区の研修会等の時間を頂いて調査を実施。

[8]「調べ学習への関わりにみる学校図書館の類型化とその分析―沖縄県内公立小中学校の学校司書を対象とした調査から」(平成 21 年度日本学校図書館学会研究発表大会研究発表、2009 年 9 月 5 日)

[9] 望月道浩「調べ学習への関わりにみる学校図書館の類型化とその分析 – 沖縄県内公立小中学校の学校司書を対象とした調査から – 」『学校図書館学研究』第 12 巻 , 2010.3, pp.5-16

[10]「調べ学習における学校図書館担当者の支援・指導状況に関する調査 – 沖縄県内の小中学校司書を対象とするアンケート調査から – 」『沖縄国際大学日本語日本文学研究』第 15 巻第 1 号 , 2010.10, pp. 1-27

[11] 沖縄の自治体では、小中学間での異動があるため、学校種別の集計は行っていない。

[12] 本アンケート調査結果から読み取れるものではないが、一般に教員の勤務実態の多忙化が指摘されるなか、文部科学省委託調査結果では、勤務時間内において「事務的な業務」、「生徒指導等」、「補習･部活動等」の業務時間の増加が指摘される一方、勤務時間内における「授業準備、成績処理等」の業務時間確保が困難となり、残業時間に当該業務を行っていることが明らかである。(小川正人 [ほか] 著『教員勤務実態調査 (小・中学校) 報告書：平成 18 年度文部科学省委託調査研究報告書』東京大学 , 2007, pp.185-197)

[13] 学校司書としての勤務経験年数を確認した Q7 の集計結果によると、正規職員のグループでは「6 ～ 10 年目」と、「31 ～ 35 年目」に大きな山ができるのに対して、非正規職員のグループでは「1 年目」と「2 ～ 5 年目」に 9 割近くが集中し、16 年目以上の職員は 1 人もいないことが明らかとなっている。(詳細は脚注 10 参照)

[14] 例えば、2003 年度に「学校図書館大賞」を受賞した朝暘第一小学校の司書である五十嵐絹子氏は、児童生徒向けの図書館だよりの他に、教師向けの図書館だよりを作成し、図書館を活用した授業の様子を詳細に紹介するという取り組みを行っている。(五十嵐絹子『夢を追い続けた学校司書の四十年―図書館活用教育の可能性にいどむ』国土社 , 2006, pp. 150-154)

[15] 教育行政の中央集権化が進行した「56 年体制」下における学校経営の特徴を、大脇康弘氏は「学校経営の五層構造」と指摘し、その問題点を浮き彫りにした。その永きにわたる背景を遡れば、学校改革が進行中とはいえ、今もなお学校現場はそ

の影響を残すものといえよう。(大脇康弘「学校の自律性と教育委員会の権限・役割」『公教育の変容と教育経営システムの再構築』日本教育経営学会編, 玉川大学出版部 , 2000, p.172)

[16] このような近年の学校組織に対する批判に対して、佐藤学氏は、日本の教育を自律的、協同的に再構築することが求められているとし、多様な人々と共に学ぶ生き方の原理として再定義することを求めている。(佐藤学「教育の公共性と自律性の再構築へ：グローバル化時代の学校改革」『変貌する教育学』矢野智司 [ほか] 編 , 世織書房 , 2009, pp.285-286)

やまぐち　しんや：沖縄国際大学
もちづき　みちひろ：琉球大学

レンタルサーバサービス

リウコム・インターネット・サービス
URL:http://www.ryucom.ne.jp/ E-mail:ris5@ryucom.ne.jp

<ベースプラン /WEB プラン / メールプラン /WEB&メールプラン>

レンタルサーバサービスは「ホームページ（公開スペース)」と「メールアドレス」をご提供するサービスです。

独自ドメインで簡単にホームページ公開／電子メール利用

●お客様独自のドメイン名でホームページ、メールアドレスをお気軽にご利用いただけます。
●面倒なサーバ設定を簡単・お手軽に行える「RIS コントロールパネル」をご準備しております。

充実したサーバ環境をご提供

●サーバは高性能な機器を利用し、多大なアクセスにも余裕で対応可能です。

安心のセキュリティ対策

●お客様に安心してメールをご利用いただくため標準で不正アクセス防止対策、「迷惑メール対策」をご提供しております。

沖縄の IT総合サービス企業
リウコム
http://www.ryucom.co.jp

詳しくは弊社ホームページをご覧ください。
リウコム　レンタルサーバ　検索
クリック！

資料　アンケート用紙

調べ学習における学校図書館の機能活用状況に関する調査

作成：　沖縄国際大学 山口真也・琉球大学 望月道浩
回答日：　平成 21 年(　　)月(　　)日

■アンケートの目的

本アンケートは、沖縄県内の学校図書館における調べ学習の実施状況と、学校図書館担当者の職務分担に関する意識を把握することにより、調べ学習支援の業務モデルを明らかにすることを目的とするものです。調査結果は、学術研究以外の目的には一切使用しません。また、アンケート用紙は無記名で回収、管理し、データの集計後はアンケート用紙を全て廃棄いたします。アンケートへのご協力、なにとぞよろしくお願いいたします。質問用紙は 6 枚あります。

(1)　勤務校に関するデータ・あなたのプロフィールについて

Q1　勤務校の種類	1)　小学校　　2)　中学校　　3)　併設校(小学校＋中学校)
Q2　学級数(全学年合計)	(　　)学級　※特別支援学級(特殊学級)を含む
Q3　司書教諭の配置状況	1)　配置　　2)　未配置　　3)　把握していない
Q4　資格・免許取得状況 **(複数回答可)**	1)　図書館司書資格　　2)　司書教諭資格　　3)　図書館司書補資格 4)　教員免許　〔　小学校　・　中学校　(教科：　　)　・　高校　(教科：　　)〕 ※○をつけて下さい（中学校・高校は教科名も記入してください）。
Q5　雇用身分	1)　正規　　2)　非正規
Q6　勤務形態	1)　専任(学校図書館の業務のみを主に担当)　　2)　兼任(給食費事務など他の業務も担当)
Q7　勤務経験年数	学校図書館での勤務　(　　)年目　　※雇用身分、勤務形態は問いません
Q8　勤務学校の所在地	(　　)市・町・村

(2)　現在の調べ学習の実施状況について

Q9　2008 年 4 月～11 月までの間の学校図書館での調べ学習時間数	1)　合計約(　　)時間　　2)　把握していない・記録を残していない ※学校図書館を活用した調べ学習の授業時間数のみ／自由読書時間としての利用、教員不在時の自習利用は除きます。概数で構いませんのでできるだけ時数を記入して下さい。
Q10　2008 年 4 月～11 月までの間に、学校図書館を活用した「調べ学習」が行われた教科・領域	1)　国語　　2)　社会　　3)　算数・数学　　4)　理科　　5)　生活　　6)　音楽　　7)　図画工作・美術 8)　保健体育　9)　技術　10)　家庭　11)　英語　12)　総合的な学習の時間　13)　道徳 14)　特別活動（学級活動，児童・生徒会活動，クラブ活動，学校行事に関わるもの） 15)　その他（　　）

Q11　「調べ学習」の実施と関連した学校図書館の年間指導計画又は利用計画	1)　計画されている　　2)　検討中である　　3)　計画の予定はない 4)　その他(　　)

(3)　調べ学習における指導・支援の実施状況と職務区分に関する意識について

まず、**2008 年 4 月～2008 年 11 月までの期間**に、以下の各領域の指導・支援を担当している人物について、該当する番号全てに○を付けて下さい。次に、質問Ｂに進み、その業務について、(職種は問わず)学校図書館担当者が引き受けるべき仕事と思う場合は、「①はい」、思わない場合は「②いいえ」を選択してください。さらに、質問Ｂにて、「①はい」と回答された方は、質問Ｃに進み、今後、貴校でその業務を行う場合に、主に誰が担当するべきか、**現在の雇用条件・勤務形態(専任・兼任・正規・非正規等)を前提として**、該当する項目に○を付けてください。

Q12　調べ学習の準備段階での支援　(主に授業担当教員への支援)

質問	A.担当状況　(複数回答可) 誰が担当しているか？ ※日々の授業や図書館での活動状況を学校司書の目から見て、把握できる範囲で構いません						B.(全員におうかがいします) 学校図書館担当者の仕事と思うか？ ※学校図書館担当者が引き受けるべき仕事？			C.(質問Ｂで①はいと回答された方へ) 今後、誰が主に担当するべきか？		
(選択肢は全て同一です)	① 学校司書	② 司書教諭	③ 図書館主任	④ 図書館主任と司書教諭を兼任する教員	⑤誰も担当していない		①はい	②いいえ(各授業の担当者個人の仕事である)		①学校司書	②司書教諭(図書館主任)	③本来は司書教諭(図書館主任)の仕事だと思うが、担当できる状況ではないので、自らが代わりに担当してもよい
(1)　過去の指導事例の提供(指導案作成のための研究文献の検索・取り寄せなど)	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③
(2)　学習テーマの決定・課題設定への助言	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③
(3)　ワードやパワーポイントを活用した教材作成の技術的支援	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③
(4)　調べ学習に活用できる資料の紹介	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③
(5)　調べ学習に必要な資料の取り寄せ・準備	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③

Q13　調べ学習中(授業時間中)の指導・支援　(主に児童生徒への指導支援・T.T.としての活動・児童生徒への個別対応も含みます)

質問	A.実施状況　(複数回答可) 誰が担当しているか?							B.(全員におうかがいします) 学校図書館担当者の仕事と思うか?			C.(質問Bで①はいと回答された方へ) 今後、誰が主に担当するべきか?		
(選択肢は 全て同一です)	①学校司書	②司書教諭	③図書館主任	④図書館主任と司書教諭を兼任する教員	⑤授業担当教員	⑥誰も担当していない		①はい	②いいえ (各授業の担当者個人の仕事である)		①学校司書	②司書教諭(図書館主任)	③本来は司書教諭(図書館主任)の仕事だと思うが、担当できる状況ではないので、自らが代わりに担当してもよい
(1) 調べたいこと(テーマ)を発見させるための指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(2) 設定テーマに関するキーワードを的確に設定するための指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(3) 辞書・事典の「背」、「つめ」、「はしら」の使い方に関する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(4) 辞書・事典の「総索引」の使い方に関する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(5) 統計書、学習資料集、年鑑、白書を使う授業の指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(6) 複数の資料(辞書・事典・統計書等)を用い比較する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(7) 分類の仕組みに関する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(8) 目録の仕組みに関する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(9) 書名(参考文献)の記録の仕方に関する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(10) インタビューやアンケート調査に関わる指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③

3

質問	A.実施状況　(複数回答可) 誰が担当しているか?							B.(全員におうかがいします) 学校図書館担当者の仕事と思うか?			C.(質問Bで①はいと回答された方へ) 今後、誰が主に担当するべきか?		
(選択肢は 全て同一です)	①学校司書	②司書教諭	③図書館主任	④図書館主任と司書教諭を兼任する教員	⑤授業担当教員	⑥誰も担当していない		①はい	②いいえ (各授業の担当者個人の仕事である)		①学校司書	②司書教諭(図書館主任)	③本来は司書教諭(図書館主任)の仕事だと思うが、担当できる状況ではないので、自らが代わりに担当してもよい
(11) Web 検索に関するコンピュータ利用指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(12) Web 検索結果において複数の情報を比較する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(13) 収集した資料・Web 情報の取捨選択に関する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(14) 調べた内容を写真やスケッチにより記録する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(15) 調べた結果をまとめる指導・支援(要点のまとめ方、ノートの整理方法)	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(16) 著作権に関する指導(出典の明記・引用の方法)	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(17) 絵や写真(パワーポイント)などの資料を用いながら発表する指導・支援	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(18) 発表のしかた、聞く態度、相互評価方法の指導	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③
(19) 他機関の利用方法の説明(公共図書館・各種施設での調査・訪問方法指導)	①	②	③	④	⑤	⑥	→	①	②	→	①	②	③

4

Q14　Q13 において、①「学校司書」に○を付けた各項目の指導・支援状況についてお尋ねします。それらは、授業時間の一部を使ったクラス全体への一斉指導と、調べ学習の時間内での個別対応のいずれの方法で実施することが多いですか？　**全体の印象**で構いませんので、以下の目盛り(数字)に○を付けて下さい。

	1 まったく実施されていない						7 よく実施している
授業時間の一部を借りて、クラス全体を対象に実施すること。	1	2	3	4	5	6	7
調べ学習の時間内で、児童生徒へ個別対応で実施すること。	1	2	3	4	5	6	7

Q15　授業終了後の支援　(主)に授業担当教員への支援)

質問	A.担当状況　(複数回答可) 誰が担当しているか？						B.(全員におうかがいします) 学校図書館担当者の仕事と思うか？			C.(質問Bで①はいと回答された方へ) 今後、誰が主に担当するべきか？		
(選択肢は全て同一です)	①学校司書	②司書教諭	③図書館主任	④図書館主任と司書教諭を兼任する教員	⑤誰も担当していない		①はい	②いいえ(各授業の担当者個人の仕事である)		①学校司書	②司書教諭(図書館主任)	③本来は司書教諭(図書館主任)の仕事だと思うが、担当できる状況ではないので、自らが代わりに担当してもよい
(1)　学習活動の到達度の評価(授業担当者と共に)	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③
(2)　授業担当者への授業改善点の助言	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③
(3)　学習活動の記録(日誌の作成)	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③
(4)　学習活動のPR(他の教員・保護者への授業実践の報告)	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③
(5)　使用した資料の保守・点検、他機関借用資料の返却	①	②	③	④	⑤	→	①	②	→	①	②	③

5

(5)　「調べ学習」に関わる自校学校図書館の環境について

設問(2)、(3)における学校図書館を活用した「調べ学習」の実施や担当の有無に関わらず、貴校の学校図書館おいて「調べ学習」を行う場合の環境という観点から以下の問いにお答えください。

Q16 については、選択肢 1)～4)のいずれにも当てはまらない、又は、選択できないと思う場合に、5)その他として（　）内に具体的にお書きください。

Q17 については、Q16 の回答内容に関わらず、「調べ学習」で学校図書館を活用するための必要条件として極めて重要と考える項目に○を付けてください。

Q16　「調べ学習」を行う環境として	1)　十分整っている　　2)　ある程度整っている　　3)　やや不十分である　　4)　極めて不十分である 5)　その他（　　）
Q17　右に掲げた項目は、「調べ学習」で学校図書館を活用するために、いずれも大切な条件ではありますが、そのなかでも、とくにどのような条件を整える必要がありますか。極めて重要と考える項目をいくつでも選んでください。	1)　学校司書の正規・専任配置　　2)　司書教諭の専任配置　　3)　予算額 4)　コンピュータの設置(CD-ROM 等の利用やレポート作成のため)　　5)　インターネット利用環境(情報検索のため) 6)　視聴覚機器の整備(ビデオカメラ、DVD レコーダー、発表用テレビ等)　　7)　他の図書館とのネットワーク（連携・協力等） 8)　図書館の広さ　　9)　閲覧席数　　10)　資料の目録(蔵書検索システム) 11)　資料の分類・整理　　12)　資料の質　　13)　資料の量 14)　ボランティアの導入(地域人材の活用)　　15)　調べ学習のための授業時間数の確保 16)　その他（　　）

(6)　「調べ学習」の時間数の変化について

Q18　今年度に入り、昨年度と比較して、勤務校での調べ学習の授業時間数に変化はありますか？　印象で構いませんので、該当する項目１つに○を付けて下さい。

1)　新任のため、または昨年度と今年度では勤務校が異なるので、比較できない

2)　昨年度と比べて、今年度の調べ学習の授業時間数は減少している　　3)　昨年度と比べて、今年度の調べ学習の授業時間数は増加している

4)　特に変化はない

■本アンケートへのご意見、または日々の活動の中で感じていること等がございましたら、自由にご記入下さい。

ご協力、ありがとうございました。

6